

「アジア太平洋戦争」の呼称と江口さん

和歌山大学教授
副島昭一

さてそのような個人的思い出はともかくとして、学問的に意味があるのは戦争の呼称問題である。一九八四年一二月八日、あるシンポジウムの席上で私は「アジア・太平洋戦争」の呼称を提案し、その後これを文章化するに際して「アジア太平洋戦争」と表記した。この提言にいち早く賛同したのは同日のシンポジウムの報告者の一人であった木坂順一郎氏であったが、ついで賛同を表明されたのが江口さんであった。十五年戦争史の標準的テキストともなったといえる『十五年戦争小史』の「はじめに」で戦争の呼称問題にふれ、「アジア太平洋戦争」を採用するとされた。「副島君はネーミングがうまいね」とお褒めのことばをいただいたことを記憶している。

この呼称問題については江口さんの話題から少しづれることになるが、機会を借りて少し追加しておきたい。この問題で最も精力的に論陣を張られたのは木坂順一郎氏で、その総括的な文章を「アジア・太平洋戦争の呼称と性格」にまとめられた（『龍谷法学』一二五巻四号、一九九三年）。その中で、柳沢英二郎氏が書翰と共に著書『現代国際政治—40's～80's』で「アジア・太平洋戦争」を使用していることを紹介された。書翰は公表されたものではないから別として、この著書について寡聞にして気がつかなかつた私は、木坂論文に教えられて早速その書を求めて読んでみた。柳沢氏はたしかに小見出して「アジア・太平洋戦争」の用語を使ってはいるが、呼称の提唱もなければ、この用語についての説明もされていない。

なぜか本文では「太平洋戦争」の用語しか使われていないので、読者は新しい呼称の提唱とは気づくことはないだろう。アジアの戦争と太平洋戦争をまとめて小見出したとも見るだろう。八五年初版でも九〇年増補版でもこの点は変わりはない。

それはともかくとして、木坂・江口両氏の賛同を契機にこの呼称を支持する研究者も増え始め、研究者の間では市民権を得るようになり、現在では一般にもこの呼称

はしばしば見られるようになつて来ている。教科書では検定で認められるには至っていないが。江口さんからは、教科書の自分の執筆部分でこの呼称を使つたが、検定では、まだ一般化していないという理由で認められなかつたと聞いたことがある。

ついとう え ぐちけいいち
追悼 江口圭一

2005年9月26日 発行

編 者 江口圭一追悼文集刊行会

発行者 渡辺睦久

発行所 人文書院

〒612-8447 京都市伏見区竹田西内畠町9
電話 075-603-1344 振替 01000-8-1103

印刷所 富山房インターナショナル
製本所 坂井製本所

落丁・乱丁本は小社送料負担にてお取替えいたします

© 2005 Jimbun Shoin Printed in Japan

ISBN 4-409-52054-7 C3021

[図]〈日本複写権センター委託出版物〉

本書の全部または一部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター（03-3401-2382）にご連絡ください。